

雇用失業統計研究会（第9回）議事概要

- 1 日 時 平成28年11月25日（金）10:00～12:00
- 2 場 所 総務省第2庁舎 6階特別会議室
- 3 出席者（構成員） 玄田 有史 東京大学教授〔座長〕
太田 聰一 慶應義塾大学教授
神林 龍 一橋大学教授
黒田 祥子 早稲田大学教授
岩本 俊也 厚生労働省職業安定局雇用政策課労働市場分析官（代理）
- （オブ） 石原 典明 厚生労働省政策統括官付参事官（雇用・賃金福祉統計担当）
（統計局） 千野統計調査部長，北原調査企画課長，
長藤労働力人口統計室長，土生企画官，長尾調査官，小泉課長補佐，
永井課長補佐，吉田（浩）課長補佐，山口専門官
- 4 議 題 （1）労働力調査の変更について
（2）その他

5 議事の概要

（1）労働力調査の変更について

【特定調査票案のB1の選択肢について】

- ・ 「過去に行った…」の選択肢について、「過去」の時点を問わないのであれば、「過去に行った」という記載は不要なのではないか。
- ・ 「過去に行った…」の選択肢を連続させるよりは、後半の表現を強調するため、最初の設問については、「求職の申し込みや応募などの…」とした方が適切ではないか。
- ・ 選択肢のうち「結果を確認」とあるが、「確認」の行為には、Eメールや郵便による通知が来ているかを確認する行為も含まれると受け取られるのではないか。
- ・ 「結果を確認」には、待つことの一環としてEメールや郵便受けを確認する行為も含まれるように思うが、「結果を問い合わせた」とした方が、選択肢の意図が明確に伝わるのではないか。

（B1の選択肢については、研究会における意見を踏まえて、修正を行うこととされた。）

【未活用労働指標等に関するQ&A及び解説資料について】

- ・ Q&Aについては、いろいろなテーマをまとめずに、一問一答のかたちで、わかりやすいものを作成してほしい。
- ・ 追加就労希望者の要件の一つである、35時間未満の就業者の説明については、なぜ40時間未満ではないのか、ということについてさらに丁寧に説明する必要がある。

(2) その他

【従業上の地位に関する国際分類の見直し状況について】

- 諸外国では、クラウドワーカーや、ライドシェアサービスを提供している“Independent contractor”について話題に上がっているので、これらの者をどのように調査しているのか各国の状況を調べてきてほしい。
- 今回ILOの分類案で提示されている「従属型の請負労働者」については、労働力調査で把握することは難しいのではないか。
- 何を以って「正規雇用」とするのかの議論を行う際に国際基準の把握は重要となってくるので、今回の分類案で示されている労働時間の定期・不定期や、フォーマル・インフォーマルについて、状況を把握してきてほしい。

(以 上)